

# 新たな医療のあり方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会 今後の検討の全体構造

## ビジョン

### 目指すべき姿

#### 地域で市民と患者の生活を支える

- 患者の複合的なニーズ・多様な価値観に応え、患者の価値を常に維持向上させる能力とそれを育成する専門性とキャリアが構築できる
- 多様な職種、住民とのチームで患者と向き合う
- 治療に際して、患者・家族の意思決定や意向を尊重し、巻き込むためのコンピテンシーが確保される
- 疾病予防や重症化予防等のため、魅力的な生活の中で、患者の意識を高めながら参加を促す
- 地域医療のあり方とまちづくりのあり方が整合し、医療職が積極的に関与・参画できる
- 自治体(都道府県等)が実情に応じたガバナンスと政策展開を行うことができる
- 患者は、地域社会との繋がりの中で医療・介護サービスを受け、死に向き合うことができる

### 課題・イシュー(例)

- 医療従事者養成課程(教育内容・年限)や資格取得後のキャリア(経験)が、目指すべき姿に対応できているか
- 多職種連携のため、専門職種間での心理的バリアの除去、共通言語の共有、知識ギャップの是正はできているか
- 医療提供体制面では、世界的に標準とされる水準のプライマリケアの確立・普及ができているか
- 市民や患者がセルフケアや適切な情報の取得(含む医療の不確実性や限界への理解)、学びなど主体的に関与する環境は十分か
- 地域医療や地域包括ケアシステムとまちづくりが連動するための仕組みや人間関係を構築するための方策が存在するか
- 自治体が能動的に関与するための能力育成や国との健全なコミュニケーションを行う環境ができているか
- 医療機関や医療職が、地域の健康や住み慣れた地域での看取りを支え、あるいは連携する体制が採られているか。医療や介護の提供に際して、地域社会との関わり方について明確な方針を持つことができているか
- 自治体の実情に応じた政策展開を行うために、必要な医療従事者を確保するための手段は存在するか
- 医師の養成において、地域における医療提供体制の確保と、専門的な能力の向上をどのように両立するか

# 新たな医療のあり方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会 今後の検討の全体構造

ビジョン	目指すべき姿	課題・イシュー(例)
<p>専門性の追求と人生の選択の両立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 子育て等のライフコースの選択によらずプロとして働き、生涯を通じて専門的な能力(プライマリケア含む)を向上し続けられる</li> <li>▪ ニーズの変化や時々の選択意思に応じて、複数の職種へ従事できるなど柔軟なキャリアの選択が可能となる</li> <li>▪ 医療機関での人材マネジメント(評価・待遇・労務管理等)が確立される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 多様なライフコースの選択に対応したキャリアトラックが明確に定義され、必要な環境や支援策が講じられているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 特に障害となっているライフイベント(境遇)はどのようなものか</li> <li>－ 従事者本人の希望やニーズが的確に把握・分析されているか</li> </ul> </li> <li>▪ 本人の状況や意思に応じた柔軟なキャリアの選択を行うための制度的・技術的環境が整えられているか</li> <li>▪ 医療機関におけるマネジメント能力向上の手法や機会は整備され評価されているか</li> <li>▪ 医師の養成において、地域における医療提供体制の確保と、専門的な能力の向上をどのように両立するか(再掲)</li> </ul>
<p>生産性と質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ それぞれの専門職として本来的・本質的な業務以外は委譲されるなど多職種間の役割分担が最適化される</li> <li>▪ 限られた人的資源と能力が、ICTやAIなどにより最大限活用される</li> <li>▪ 個々の保健医療行為が生み出す価値がデータで客観的に把握・評価・促進される(投資に見合う医療の提供)</li> <li>▪ 限られた医療資源を効率的に活用する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 医療ニーズや技術の変化、人的資源の変動に応じて、職種間の役割分担を見直すことができているか</li> <li>▪ 医療における患者の役割を見直し、効果的な参加を促すことができているか</li> <li>▪ 国際的な潮流や事例を踏まえ、我が国の職種間・職種内の役割分担や協働の在り方は競争力があるといえるか</li> <li>▪ 進化するICTやテクノロジーが医療にもたらす効果や影響を把握・分析し、基本スタンスが明確か</li> <li>▪ 効果的なIT技術を医療現場で活かすことへの障害はあるか。それはどのようなものか</li> <li>▪ それらに対応する人材づくりやインセンティブ設計は十分か</li> <li>▪ 医療の質をどう測り、向上を促すためのデータ環境とメカニズムが構築・機能できているか</li> <li>▪ 限られた保険財政を踏まえた医療従事者の配置・養成の在り方が構築されているか</li> </ul>

# 新たな医療のあり方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会 今後の検討の全体構造

## ビジョン

### 目指すべき姿

- 保健医療が地域経済に貢献している
- 医療職の関与と貢献により、効果的・革新的な医療技術・製品等が開発されるなど日本の保健医療人材やサービスが国際的な貢献や経済活動の拡大につながる

経済活力  
(イノベ・  
国際化)  
への貢献

### 課題・ 이슈(例)

- 地域における雇用の機会を維持・拡大することができるか
- イノベーションに寄与する人材の育成・キャリア支援・量的確保が図られているか
- ビッグデータ、ゲノムデータ、AI等の活用によるイノベーションや新産業の育成がしやすい環境となっているか
- 我が国の保健医療サービスや人材がグローバルに展開し、交流していくための環境は十分にあるか。日本に対してどのような期待と可能性があるか